

令和6年度 第1回 二宮町下水道運営審議会会議録

日時 令和6年10月29日(火) 午後2時05分から午後3時30分
場所 二宮町役場 第1会議室及びオンライン
出席者 大田博樹会長、加藤康介委員、下野俊二委員、
今井恵子委員、松尾武保委員、土谷美智代委員
欠席者 村田耕一郎副会長、原美耶委員
事務局 下水道課長、業務班長、業務班主査、業務班技師
傍聴者 なし

・開会

・会長あいさつ

・議題

(1) 令和5年度二宮町下水道事業の決算状況について
事務局より資料1・資料2・資料3・追加資料に基づき説明。

会長： 企業会計の考え方は、当期純利益を計算するのが一番の目的になっています。そこで、利益がどのくらい上がったかを計算しますが、こちらの下水道の運営に関しては、利益を上げることは目的としていないので、こちらの資料をご覧いただく方が、その利益が上がってないから駄目なのではないかと、勘違いされないように、普及啓発を進めるのがいいと思いました。

損益計算書で、営業利益は通常黒字になるべきです。本業で稼ぐ力のことを表すので、ここが赤字になると通常ビジネスモデルがもうすでに崩壊していると言ってもいいくらい、とても重要な指標ですが、やはり受益者負担だけで賄うことは難しいのでここが赤字になるのは、全く問題ないです。二宮町に住んでいる方々は、相当安い料金で、下水道事業を利用していることを知るいい機会なのかなと思いました。

キャッシュ・フロー計算書は、数字がプラスかマイナスか確認するだけで、その組織のキャッシュの状況を確認することができますが、一般的に業務活動によるキャッシュ・フローがプラスであれば、投資活動によるキャッシュ・フローと財務活動によるキャッシュ・フローのところはプラスでもマイナスでもどちらでも大丈夫です。

業務活動によるキャッシュ・フローは本業でお金が入っていることを意味するので、こちらは全く問題ないですが投資活動によるキャッシュ・フローがマイナスでも全く問題がなくて、積極的に色々なものに投資していればここはマイナスになってしまいますし、逆に今持っている資産を売却して、組織にお金が入ってくるようになるとプラスになります。

今回プラスになっていますが、こちらは補助金収入が多くなっています。また他の予算からお金を持ってきているのでここが一時的に黒字になっているだけで、そんなに重要な数字ではないと思います。

あと、財務活動によるキャッシュ・フローでは、例えば銀行からお金を借りると、組織のお金がいっぱい入ってくるのでここがプラスになるだけで、逆にここがマイナスになるのは、返済にお金を使っているの、喜ばしいことだと思います。

企業とは違うのでなかなか難しいですが、役割さえきちんと理解していれば、プラスでもマイナスでもどちらでも大丈夫だと思います。

1年目ということで、昨年までとの数字の連続性が一旦ここで切れてしまっているの、なかなか経年の比較は難しいですが、これは大変なことになっているという印象は受けませんでした。

それと財務分析も、このぐらいなのかなという印象を受けました。

委員：水洗化率について、二宮町は86.0%ですが、他の市町村の実績はどのくらいでしょうか。

事務局：大磯町は令和5年度末で80.5%、平塚市が令和4年度末で97.9%です。

委員：まだ公共下水道に接続してないところは何件くらいありますか。

事務局：令和5年度末の時点で約1,500件です。

委員：他市町村の経費回収率は、どのくらいですか。

事務局：隣の大磯町で、約98.1%です。

委員：水道料金が10月から値上げをしていますが、その影響はありますか。

事務局：光熱水費の値上がりにより、全体的に節水意識は高まっていたため、有収水量の減少が見込まれます。

委員：減価償却費、50年たって交換とか更新する場合、ちょうどその50年目に、その更新分だけ何か貯まるようなイメージですが、どうですか。

事務局：減価償却費は決まった算定の方式がありまして、企業会計特有の支出で現金を伴わない支出で、留保資金となります。これは、今後の建設費など、赤字が出たときに充てられる資金となります。

令和5年度留保資金ですが、約5,500万円です。現在行っている下水道管の建設に加えて、今後、今、入っている管の更新などの費用の増加が見込まれますので、二宮町から赤字補填の目的での他会計補助金などもあり、留保資金を増やして将来に備えていく必要があります。

委員：毎年、留保資金が増えていくということですか。

事務局：赤字経営にならない限りは、徐々に増えていきます。

委員：その時に町からの補助金も一緒にして、更新するということですね。

事務局：はい、そうです。

委員：赤字経営にならない限り、この資金が増えて、目減りはしていかない。
今後の人口減少を考えると、相当なスピードで有収水量が減ってくると思いますが、そうなった場合、この先の管の新設、それから管の更新、それに当たる費用は、受益者負担ということで現在下水道に接続している方々の料金が上がっていくと考えればよろしいでしょうか。

事務局：経費回収率という指標があって、汚水の処理費に対する下水道使用料が、どの程度その処理費を賄っているかという指標になりますが、二宮町は今100%を切っております。経営の改善を行っていく上では、使用料の改定も検討していかねればいけない状況です。

委員：値上げは避けられないということですね。時期の問題もあって、上水が値上がった状態で、下水が値上がると、ものすごい家計に負担がくるので、他に何か改善する余地がないのでしょうか。
どの程度まで整備が進んでいて、今後の整備の予定や更新が何年後にどれくらいあるのかわからないのですが、今の2万7,000人近くの人口が1万9,000人ぐらいまで減る予測が出ていて、不安があります。

事務局：下水道の整備は、約95%が整備済みで、残りの5%を徐々にやっていきます。下水道管の耐用年数は大体50年と言われていています。昭和50年代に開発などで整備され、町に移管したところは更新を若干早めにやる必要がありますが、町の整備は平成に入ってからになるので、想定人口で2万人切るか切らないという時期と同じくらいの2040年ぐらいから、更新していく必要があると考えています。

会長：流動比率が他の同様の団体と比べると明らかにかなり低いですが、これはどういった事情でしょうか。行政は現金でのやりとりがすごく多くなると思いますが、現金でのやりとりが多い中でのこの流動比率は結構低いと思いました。

事務局：類似団体数値の78%は、企業会計になってから3年ぐらい経過した自治体で、その団体に確認したところ、企業会計に移行して年数を経過しないと、資金が貯まらないので低く出るような傾向があるそうですので、二宮町は初年度ということで低いと考えています。

会長：行政が潰れるかわからないですが、企業会計で赤字が出ても手元に現金があれば、組織は潰れない。でも逆に黒字が出ていたとしても手元の現金がなくなると様々な支払いができなくなってしまうので、現金の残高は大切だと思います。企業会計に変わってまだ1年しか経っていないので、今年はこれでいいとしても、来年度再来年度と、過去5年間とかで比較できるようにして、安定的な経営をしていくといいと思います。

会 長：有形固定資産減価償却率は、年間の償却率ではなく、累積と考えていいですか。今年作ったものでないのでここ数年、何年か経過償却進めていると思いますが、その累積額が全体の償却対象資産の2.99%ですか。それとも毎年2.99%を利用継続しているという、イメージですか。

事務局：累計額が全体の2.99%となっています。

会 長：定額法にて50年で償却するとあるので、例えば5年前に作ったのだとすると、すでに5年分の減価償却は、今回の決算書類に入るのかと思ったのですが、累積になり、50年目には100%近くになるということですね。

事務局：95%までが減価償却できます。

委 員：先ほど近隣の比較で、事務局からは大磯と平塚を出していましたが、污水处理費のことを考えると、うちは酒匂で、大磯平塚は相模川なので、そちらは、大きな市を抱えているので、割と人口も増えてきて伸びているところに対して、酒匂は、人口が減っているように思える中で、今後の污水处理費用が、酒匂の方は上がってくるとかと、比較対象は同じ酒匂で、同じような人口で比較した方がわかりやすいと思います。

事務局：一番似たような財政力・人口となると大磯町と比較するのが一番わかりやすいので挙げていますが、処理している酒匂川流域で、比較対象がなかなかないのですが、検討させていただきます。

委 員：決算書意見書の特定事業場の水質検査等の取り組みについて、どのような指導・監督をやっているのですか。

事務局：流域の処理場で、特定事業場から出る排水の水質の基準値があるので、それを確認するための水質検査を実施しています。

委 員：作業で使った水を垂れ流ししている場合、そういうところにその前処理施設を造らせるとか、指導、監督測定をしていますか。

事務局：必ず有害物質が出る場合は、除外施設と言ってそれを取り除く施設を造ってもらってから、下水道に流すようになっていますので、除外施設が機能しているかどうかを確認するために水質検査を年に4回行っています。

会 長：今回、企業会計という制度に移って、私たちが理解しやすい内容だと思います。利益が出ていることが必ずしもいいわけではないので、もちろん受益者負担ですべて賄えばいいですが、今回をきっかけに、住民の皆さんに興味関心を持ってもらって、自分事として考えてもらう良いきっかけになるのかなと思います。私たちの庶民的な意見が、これから町民の皆さんに情報を知ってもらう上ですごく大切だと思うので、素朴な疑問でも構いませんのでぜひ、ご意見やご質問をお願いします。

委員：下水の管ではなく、側溝の整備に関しては、どこが維持管理や整備をするのかよくわかりません。

事務局：道路側溝は、下水道課ではなく道路部局で管理しています。

会長：下水道事業のどこまでの範囲が費用に入るかがわかると、全体像がとらえやすいですね。

委員：今回二宮で水害が起きたのですが、先ほどの1,500件の未接続のところが、浄化槽に流すと、それは葛川に流れていくと認識しているのですが、間違っていないか。

事務局：地区によってですが、ほとんどが葛川に流しています。

委員：今回のような水害をきっかけに、未接続のところに、普及啓発する良いきっかけではないかなと思ったのですが、今後、どのように普及啓発をしていきますか。

事務局：未接続の対象地を絞って接続の勧奨を実施しています。今年度は、集合住宅やアパート等の未接続を対象として行いました。いただいたご意見を参考に、接続勧奨を検討していきたいと思えます。

会長：会計情報はもちろん重要なことですが、これだけの投資はかかったけど、結果的に、環境汚染はこの程度下がったなど相関はあると思うので、そういう報告書など、だんだん進めていけばいいのかなと思いました。

委員：決算書の見方の他会計補助金の雨水の処理費用というものは、二宮町の場合は大型の雨水排水ポンプ場はないですが、どのような費用ですか。

事務局：雨水の処理費用は、雨水対策工事の工事費用に充てるお金として、企業債で借入れをして、借入れた元金や、利息の償還金を一般会計から繰り入れています。

(2) その他

- ・事務局より今後の経営戦略について説明
- ・事務局より令和6年度「新春のつどい」について説明

・閉会